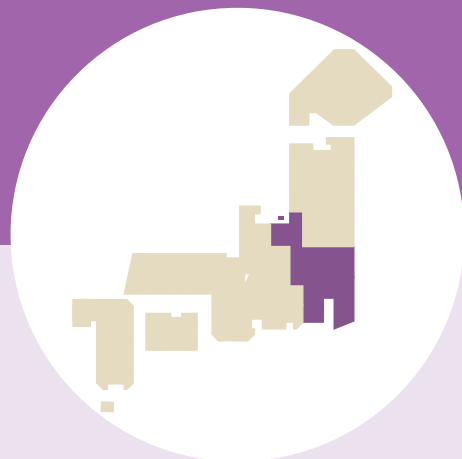


関東・甲信越



p.14 茨城県

松浦 剛さん



ダンススポーツ

p.15 栃木県

溝井代次さん



ターゲット・バードゴルフ

p.16 栃木県

伊藤 武さん



ソフトテニス

p.17 群馬県

辻川嘉彦さん



卓球

p.18 東京都

長島雄己さん



サッカー

p.19 山梨県

小俣照彦さん



ソフトバレーボール

p.20 長野県

竹内弘子さん



ソフトバレーボール





ダンススポーツ

「茨城県ダンススポーツ」(選手)

まつ うら ごう

松浦 剛 さん

66 歳

● 参加歴：3 回目

強豪をおさえ、団体戦で驚きの日本一！

11月13日(日)、カルッツかわさきで開催された「第34回全国健康福祉祭」のダンススポーツ交流大会・団体戦で、茨城県が「優勝」しました。(1チーム4組：監督 永井彰、チャチャチャ(C) 初見甚・初見智恵子組、ルンバ(R) 平沢一夫・平沢恵子組、ワルツ(W) 松浦剛・松浦直美組、タンゴ(T) 五十嵐隆則・五十嵐めぐみ組 計9名)

「ねりんピック」の名称で親しまれ、毎年開催されてきた「全国健康福祉祭」はコロナ禍で中断されていましたが、2022年11月12日(土)～15日(火)まで神奈川県で3年ぶりに開催されました。

11月12日(土)午前に横浜アリーナで開催された「総合開会式」は、三笠宮彬子女王陛下ご臨席のもと、47都道府県と20政令指定都市から参加した監督や代表選手、関係者など約1万2千人が一堂に会する圧巻の式典でした。

11月13日(日)のダンススポーツ交流大会は、朝の開会式直後から「個人戦」のラテン(CとR)と午後一番で同スタンダード(WとT)が実施され、「団体戦」は15時半から18時過ぎまで、長時間にわたる交流大会でした。

【個人戦】

ラテンのチャチャチャに156組、ルンバに158組のエントリーがあり、1～4次予選・準決勝・決勝と行われます。同様に、スタンダードのワルツ・タンゴ各々へ187組が出場しました。国内のダンススポーツ大会で参加組数が600組を超えるのは、コロナ禍が始まって以来“初”となる最大規模でしょう。特筆すべきは全ての選手が60歳以上のシニアであること、ね

りんピックが「シニアの国体」とも呼ばれる所以です。

この個人戦で初見組がCとRの両種目で優勝し、平沢組はC、R、W、Tの4種目全てにおいて決勝戦へ進出しました。

【団体戦】

32都府県と11政令指定都市の代表49チームが参加する団体戦は、1～3次予選、準決勝、決勝が行われ、茨城県ダンススポーツは決勝(ベスト8)に進出できました。主催地の川崎市代表は2チームとも決勝進出という強豪でしたが、表彰式において「第1位は茨城県！」と発表された瞬間、私たちチーム全員が飛び上がりました。喜びの日本一です！

「久しぶり、元気だったあ？」や「会えてうれしいねえ！」などの言葉で始まったダンススポーツ交流大会は、全参加者がコロナ禍を乗り越えて再会できた喜びと共に旧交を温められる、最高の1日となりました。



左から松浦組、平沢組、永井監督、初見組、五十嵐組。(左端)



ターゲット・バードゴルフ

「イチゴ とちぎ」(選手)

みぞ い しろ つぐ
溝井 代次 さん

70 歳

● 参加歴：1 回目

地道な練習と情報収集が結実し、優勝！

今回、初めてねんりんピックに参加しました。以前にも声をかけていただきましたが、開催地が遠方のことが多く、参加を見送っていました。昨年、岐阜での大会にも参加予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止になり、出場が叶いませんでした。

ねんりんピックかながわ 2022 への出場に向けては、まず県の予選大会に参加し、上位入賞し、代表権を獲得しました。大会前には、競技予定のコース案内が来たので、これを見ながら地元の所属コースに大会本審を模したコースを設定し、練習を重ね、距離感を養いました。さらに、ねんりんピックの会場となる神奈川県綾瀬市のコースは常設ではなく、プレーしたことがない県外の選手は不利との話もあり、風の状況などの情報収集に努めました。また、たまたま神奈川県のターゲット・バードゴルフ (TBG) クラブに顔見知りが出て、その方から大会前日に「風と飛行機の騒音に注意」とのアドバイスを受け、意識するようにしました。

案の定 1 日目は強風で、9 ホールまでプレーしましたが、続行が困難となりノースコアになり、2 日目限りの大会となりました。1 日目終了後、強風対策として、日本 TBG 協会全国大会と全日本 TBG 協会全国大会の元優勝者と練習を行い、攻め方などの確認をしながら 2 日目に備えました。

2 日目も強風でし

たが、平常心で着実に攻めようと意識し、周囲のプレーヤーに対抗せず基本を守りプレーしました。

全日本 TBG 協会の競技では何度か優勝していましたが、日本 TBG 協会の競技者と一緒に戦うのはねんりんピックのみなので、ここで勝って初めて本当の日本一となれると考えていました。

多くのプレーヤーが風の影響で乱れる中、結果は諸先輩たちを抑えての優勝。喜びと感謝で感無量です。地道な練習と、先輩たちのアドバイスによる情報収集、そして一緒にラウンドしてくださった同伴競技者の方たちとの親睦・交流により、頂点に立てたのだと思います。地元栃木に戻っても、さらに地域活性化と交流、そして後輩の指導育成に努めたいと考えます。

現地までの誘導、現地での応援など、県のスタッフの方々には大変お世話になり感謝いたします。また、大会を盛り上げるためにオープン参加されたプレーヤーの皆さん、そしてコース設置や整備をしてくれた現地スタッフなど、多くの方たちの支えの上に結果があります。ありがとうございました。



栃木県選手団「イチゴ とちぎ」の皆さん。(左端) 表彰式で喜びがこみ上げる。(右から2番目)



ソフトテニス 「ストロベリー」(監督兼選手)

い どう たけし

伊藤 武さん

68歳

●参加歴：1回目

チームワークと精神力で勝ち取った日本一

2022年10月、栃木県で「いちご一会とちぎ国体」が開催され、若者たちの素晴らしい活躍に感動しました。国体が終わり、次は私たちシニアの出番です。ねんりんピック栃木県代表には、キャリアと実績のある頼もしいメンバーがそろいました。

総合開会式会場は横浜アリーナ、入場行進はコロナ禍のため代表者のみでした。観覧席には日本全国から集まった役員、選手団がそろい、素晴らしい風景でした。

開会式終了後、バスでソフトテニス会場の小田原アリーナへ移動し開始式を行い、宿泊先の箱根高原ホテルへ到着したのは19時を過ぎた頃でした。疲れきってホテルの部屋に入ると、岐阜県チームとの相部屋でした。

11月13日の試合当日、相部屋の岐阜県チームとは会場が分かれることとなり、朝6時に朝食をとり、お互いの健闘を誓い合い出発しました。

予選リーグは、堺市、三重県、新潟市、栃木県で総当たりし、3勝0敗で1位となり、1位トーナメントへ良い出足となりました。試合終了後、バスの時間を待つ間にマッサージをしたり、コンビニでビールを買ったりして皆さん余裕を見せていました。

ホテルに着き勝利の報告をすると岐阜県チームも1位トーナメントへの進出が決まっており、お互いに良い報告ができました。

11月14日、お互い頑張ろうと誓い小田原会場へ出発。1回戦はシードで、2回戦で岡山県に2-1で勝利。3回戦は東京都Aに2-1で勝利。我がチームの近藤・鈴木ペアの相手は、近藤選手の以前のダブルスのパートナーでもあ

り、やりづらそうでしたが、辛うじて4-3で勝利。準決勝、兵庫県に2-1で勝利。そして決勝戦の相手は健闘を誓い合った岐阜県チームとなりました。

開始のあいさつ時はすでに日も沈み暗くなっていましたが、お互い頑張ろうとエールを交換し、試合が始まりました。1-1で迎えた3試合目、岸・釜石ペアが1-3とリードされ絶体絶命。ここから2人の粘り強いプレーで徐々に挽回し3-3のファイナルゲームに突入。デュースで息詰まる展開となりました。ここから岸・釜石ペアの驚異の粘りと精神力で、勝利を得ることができました。

初めてのねんりんピック出場で日本一になって本当に幸せです。生涯忘れることができません。最後に、社会福祉法人とちぎ健康福祉協会

の皆様、またこの大会に係わった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



予選リーグ1位で決勝へ! (右端)

接戦を制した「ストロベリー」のメンバー。
(後列左端)





卓球 「群馬フレンズ」(監督兼選手)

つじ かわ よし ひこ

辻川 嘉彦さん

71 歳

● 参加歴：1 回目

全力投球で趣味を楽しむ！

ねんりんピックかながわ 2022 には夫婦で参加しました。種目は、経験年数が 55 年の卓球です。

卓球には硬式とラージボールの 2 種類があります。オリンピックや世界選手権で採用されるのが硬式。それに比べ、ラージボールは初心者でも楽しめるようにと、ネットが 2cm 高く、ボールは直径で 4mm 大きく、かつ軽いものが使われます。また、ラバーにも制限があるためボールに回転がかけづらく、スピードも弱まり、ラリーが続きやすいのが特徴で、昭和 63 年に日本で考案されました。ねんりんピックの卓球は、ラージボールで行われます。

私は定年後、練習時間が豊富になったので、硬式卓球を続けながら 5 年前にラージボールを始めました。練習仲間からねんりんピックについて「群馬県の参加チームは親睦最優先の選手選抜のため、県内で予選を実施する県との対戦では例年全戦全敗だ」と体験談を聞き、負けず嫌いの血が騒ぎ、県内大会の入賞仲間を誘って 6 名で参加することになりました。

横浜アリーナでの素晴らしいオープニングセレモニーを堪能した後、横須賀アリーナでの大会では、予選リーグで全勝の 1 位となり、優秀賞メダルを手にしました。残念ながら 1 位同士での順位決定戦では惜敗しましたが、全国各地の選手との対戦や、会場近くの日帰り温泉、横須賀市内での食事会、帰路途中の横浜中華街での夕食など、充分楽しむことができました。

今回対戦した、香川県、新潟県、京都府には過去の全国大会で対戦した選手もおられたので、笑顔で挨拶。また、私が生まれ育った大阪

の選手団には、20 歳の時に結婚のきっかけとなった、大阪代表として東京体育館での全国大会に参加した時の監督がおられ、50 年ぶりの再会に懐かしく妻と 3 人で話が弾みました。

最近では 70 歳になったこともあり、30 年間活動した地域の卓球クラブの代表を若手に引き継ぎ、念願の近隣中学の外部コーチとなり、団体戦で初の県内 3 位となり、関東大会の代表権を獲得できたことを皆で喜び合いました。そして外部コーチも参加可能な全国教職員大会に初参加で優勝し、関東ラージボール大会でもシングルスでの優勝と妻の 3 位入賞が叶い、うれしいことが続きました。

今後も顧問の先生と力を合わせて中学生を指導するとともに、ベテラン大会を中心に年間 60 大会への参加を継続し、夫婦共通の趣味でもあるゴルフや、温泉旅行も精一杯楽しみたいと考えています。



チーム「群馬フレンズ」で記念撮影。(左端)



サッカー 「東京都 B」(監督兼選手)

ながしま ゆう き

長島 雄己さん

64 歳

● 参加歴：2 回目

前回の銅メダルを糧に、金メダル獲得！

いよいよ3年ぶりに「ねんりんピック」が開催され、わくわくしながら開会式会場に向かいました。とは言え、まだまだコロナ禍での開催で、大会関係者およびスタッフの皆様には大変なご苦労がある中で実施していただき感謝申し上げます。

私ども東京都サッカー B チームは前回の和歌山大会では銅メダルであったので、今回はぜひとも銀メダル以上を目指そうと、良い緊張感で会場入りしました。

本大会は2日間で3試合というややハードなスケジュールで行われるため、選手の交代やペース配分も重要なポイントとなりますが、我が東京都 B チームはメンバー総勢 14 名と少数精鋭ですので、監督の采配がさらに重要となっていました。

そんな中でも初戦は2-0で勝利し、初日を終わりました。2日目の2戦目は4-0で快勝し、最終戦のピッチに向かいましたが、前半早々1失点。後半となり、時間は進むもゲームは0-1のまま膠着状態が続き、残り時間も僅かで敗戦濃厚になっていた終了3分前に、エースが同点弾をゴールに叩き込み、1-1の引き分けで

試合を終えました。結果は、2勝1引き分けでしたが、得失点差で上回り、金メダル獲得となりました。

東京都は A・B の2チームで参加しており、A チームも金メダルを獲得し、ダブル優勝という最高の結果で今大会を終えました。

私個人は、今回が2回目の参加となりますが、他県の代表チームと対戦できたことが良い経験となっていますし、試合前後に他県選手の方たちと交流できることも大変有意義に思います。

また今回4日間をともに過ごしたチームメイトは普段別チームで対戦しているメンバーですが、この大会のために選抜され、大会前にはテストマッチを数回重ね、チームの雰囲気も良くなって本大会を迎えていました。

大会前日は中華街で盛り上がりったり、横浜の街を散策したりしたことも貴重な思い出になりました。

この後はまた、東京都シニアリーグで対戦相手として別チームで戦うこととなりますが、次回の東京予選を勝ち抜き、再び「ねんりんピック」に参加できるよう、日々精進していきたいと思います。



第一試合、守備につく東京都 B チーム。(左上ゼッケン 20 番)



優勝を手にした東京都 B チーム。
(後列左から 2 番目)



ソフトバレーボール 「都留市 ルパン」(選手代表)

お また て る ひ こ

小 俣 照 彦 さん

60 歳

● 参加歴：1 回目

念願の全国大会出場でブロック優勝

バレーボールの経験はありませんでしたが、40歳過ぎてから妻の友人からチームに誘われて始めたソフトバレーボール。楽しさに気づき、週に1～2回の練習と年に数回の地域の大会に参加していました。

始めてから3～4年経ち、県の試合にも誘われ、「都留市 ルパン」チームに妻と入部しました。

そこから試合での緊張感を体験し、「勝ちたい」「上手になりたい」と強く思うようになりました。

現在、都留市 ルパンは、20代から70代の男女28名で和気あいあいと活動しています。これまで、男女混合での全国大会予選の結果は、最高で準優勝でした。

しかし、今年は60歳になるメンバー3人のパワーもあり、ねんりんピックの県予選で優勝！「全国大会出場を楽しみながら勝つ！」を目標に練習をした結果、県予選で優勝することができ、その夜はみんなで優勝を分かち合い、慰労会も盛り上がりしました。

そして「ねんりんピックかながわ2022」に出場。令和4年11月13日の予選は、千葉県チームに2-0で、奈良県チームにも2-0で勝利

し、1位通過しました。

翌日11月14日は、1位リーグで接戦の末、新潟チームに2-0、徳島チームに2-1で勝利。結果1位リーグブロック優勝となりました。

ねんりんピックが終わり、応援してくれたメンバーと共に戦った「絆」を感じ、60歳過ぎてスポーツで勝負することへのこだわりと喜び、楽しさを感じ、本当にいい思い出になりました。大会に携わっていただいた方に感謝です。

来年もまた県予選を優勝し、愛媛でのねんりんピックに出場するぞー！



試合終了後に、1位のポーズで撮影。(後列左から2番目)



県での報告会で副知事を囲んで。(前列左から3番目)



ソフトバレーボール 「南風」(選手代表)

たけ うち ひろ こ

竹内 弘子さん

61 歳

● 参加歴：1 回目

「あきらめるな」 監督の一言で危機脱却！

私たち「南風」は、長野県大町市で活動しているソフトバレーボールのチームで、結成から25年が経ち、今は15人で練習しています。週2回の練習は、よいストレス発散にもなり、チームの年齢はちょっと高めですが、みんなで楽しく練習しています。

昨年、60歳以上の種別の県大会があると聞き、参加することにしました。コロナ禍でなかなか大会に参加できず、久しぶりの大会でした。そしたら、あれよあれよという間に優勝。長野県代表としてねりんピックに出られることになったのです。これも今までの練習の成果だと、みんなで素直に喜びました。初出場です。

全国のソフトバレーボールの仲間と会えること、一緒に試合ができることに、ワクワクする気持ちでいっぱいでしたが、一方で6月の県大会から11月のねりんピックまで期間が長く、モチベーションを保つのが大変でした。

しかし、チームメイトの協力もあり、準備万端で迎えた「ねりんピックかながわ2022」。1日目は予選リーグ戦。2試合行い2勝したので、2日目の順位別リーグ戦は1位グループで試合をすることになりました。

2日目のBコート9試合目、この試合に勝てばグループ優勝が決まる大切な試合。相手は福岡県代表のチーム。1セット目を取られ、2セット目も15点マッチで14点を先に取られ、後がなくなりました。みんながあきらめかけていたその時、監督がタイム

を取ってかけた一言が「あきらめるな。あきらめたら終わりだぞ」。この一言で、チームが一つとなり、何とか2セット目を取る事ができました。

いよいよ勝敗がかかった3セット目。まわりを見ると試合をしているのは私たちのコートだけです。ほかの選手は2階の観客席から私たちの試合を見ていました。役員やスタッフの人たちも、私たちのコートのまわりで試合を見ていました。こんなにたくさんの人たちが見ている前で試合をするのは初めてです。緊張する～。でも試合に全集中!!

みんなの気持ちを一つにしてプレーし、15対13で何とか勝つことができました。グループ優勝です。

優勝できたことも嬉しかったのですが、試合が終わった瞬間、体育館に響きわたるくらいたくさんの拍手をもらったことが、涙が出るほど嬉しかったです。こんな経験は2度とない、と思いました。思い出に残る良い大会でした。

最後に、この大会を支えてくださったスタッフ、ボランティアの皆様ありがとうございました。



初出場ながら全集中で試合に臨んだ。(中央でレシーブ)



あきらめずに戦い優勝したチーム「南風」。(右端)